

地図の楽しみとは？

小林政能（日本地図センター・境界協会主宰・地図ナイト主宰）

最近、「地図って（流行って）来ているんじゃないですか？」と言われることがある。どうやら複数のメディア制作の方が、地図・地理ネタへの関心が高まっているように感じているようだ。日々、視聴者の反応に接している方の言葉には、素直に首肯するしかない。また、多少追従が混じっているとしても、実際にメディアに出演している方から、「実は、地図とか好きなんですよ」とうかがうこともある。

それは一つに、日々の生活の中に地図・地理へのエンタランスやリンクが意外に多く、それを上手に切り出すことによって共感を生むことが伝播しつつあるからではないだろうか。その断面は、通勤・通学の途中かもしれないし、スーパーマーケットでの買い物中かもしれない。近年の健康志向から、手軽な散歩や街歩きからジョギングや山歩きなど、アウトドアで身体を動かす傾向が、その機会をさらに増やしているのかもしれない。

また、今まで地図・地理に興味があったものの、それをどのように表出していいかわからず、自分の中で温めていたり、秘かに愉しんでいたことを表現する場＝SNS が与えられたことも大きいであろう。日常の生活圏では知り合えなかった同好の士とつながることが容易になり、「秘か」であることから開放されたことによる反動もあって、形作られた趣味の連携は活発なものとなっていると感じる。

このような地図・地理の楽しみ方のパーツを、自分なりに取り出してイベント開催しているのが「境界協会」と「地図ナイト」の2つである。

境界協会とは、地図上に描かれているが現実には見えない市区町村界・都府県界・旧国界などの境界線を追う、参加費無料・事前登録不要の地図街歩きイベントである。2014年5月に第1回のフィールドワークを行い、それ以降ほぼ隔月で境界ウォークを行っている。日常ではあまり意識されない境界線も、そこにあることを念頭に置いて街歩きを行うと観察眼が共有され、多くの発見に出会うことができる。また、なにゆえそこに境界があるのか疑問を持つことで、その土地の歴史や文化や、その場の地形を考えるきっかけにもなる。また、フィールドワークには旅行や運動の要素も含まれ、現実からしばし離れた非日常に接することも含めて、地理・地学ならではの巡検の楽しみの一つであろう。

地図ナイトは、「地理地図地形好き大集合の大人気エンタメトークイベント」と銘打ち、自称「日本唯一・おつまみが”地図”のパーティ」である。2011年7月より、東京・お台場のイベントレストラン



境界協会
フラッグ

・東京カルチャーカルチャーで年に数回のペースで開催している。地図に関する一つのテーマについて、一言ある専門家達が登壇し、この場でしか聴けないざっくばらんなトークで盛り上がる。毎回異なるテーマ設定のため登壇者も毎回違うので、地図・地理に興味がある人であれば、何度来ても飽きることはないであろう。本編後の2次会には、学会後の懇親会にも似た雰囲気、同好の士が集う中での新たなコミュニケーションが生まれる「オフ会」的な意味合いもある。また、登壇者同士も異なる分野の専門家とコラボレーションする中で、新たな発見や知見が広がる可能性をも秘めている。

このように地図の楽しさには、多くの人を引き付ける魅力があることを詳らかにし、見える化することを目論んでいる。